

令和6年度

厚生労働省 認定調査員フォローアップ研修
特記事項の記載演習

厚生労働省
社会・援護局 障害保健福祉部 企画課
障害支援区分管理事業

① 個人ワーク

- 模擬認定調査のシナリオに関する説明を聞いて、認定調査項目の選択肢を選び、特記事項に記載する内容を検討してください。
- 事前講義でご紹介した特記事項の記載ポイントを振り返りながら、個人ワークシートに、実際に記載してみましょう。

② グループワーク

- 認定調査項目の選択や、特記事項の内容について、個人ワークで検討した内容をグループメンバーに共有しながら、よりよい特記事項についてディスカッションを行ってください。

③ 解説

- 特記事項の記載ポイントについて、講師から解説します。

※本日は、事例1～4を用いて演習を行います。

（演習の解説部分のスライドを事前に見ないようにしてください）

グループワークの方法

- 各グループにおいて、選択結果やその判断の理由、特記事項に記載した内容等について話し合ってください。
- おひとりずつ、個人ワークの内容を共有してください。
 - ・ 進行役の方は、発表順を指定してください。
 - ・ 個人ワークの内容を共有後に、お互いの発表の中で、良いと思った記載内容等について、ディスカッションを行ってください。
- ディスカッションの時間は**10分間**です。（おひとりずつ共有いただき、余った時間でディスカッションをお願いします）

＜グループワークの留意点＞

- 特記事項の記載内容について、唯一の正解はありません。
（グループワークでは、1つの結論や正解を目指す必要はありません。）
- お互いの意見を否定せず、事前講義で学習したポイントを意識しながら、よりよい特記事項のあり方について意見交換を行ってください。

グループワークのグラントルール

- 端的に発言すること(長くとも1回30秒以内)
- 積極的に発言すること
- 否定的な発言はせず、受容的な雰囲気作りをすること
- 求められたゴール・課題に向けて発言をすること
(自分の興味・関心だけで発言しないように留意)
- 多様な意見が出るように努めること
(自分ばかりが発言しないように留意)
- 時間を守ること

○調査対象者の概要

- Aさん 男性(50歳)
- パーキンソン病。身体障害者手帳6級
- 家族(父、母)と同居。主たる介護者は父。

○評価を行う認定調査項目

- 「2-6 健康・栄養管理」

○認定調査の状況

- 対象者の自宅にて調査
- 本人と父親が対応

【事例 1】シナリオ

調査員：食事の献立はどのように考えられていますか？栄養のバランスを気にされたりしてお考えになるのでしょうか。

本人：私が希望を伝えることもあります、基本は父が決めています。

介護者（父）：お肉が食べたいなどの希望はありますが、栄養のバランスまでは目が向かないようなので、私が献立を決めています。病気を発症する前に一人暮らしをしていた時は、好きな時に好きなものを好きなだけ食べていたようです。

調査員：そうなんですね。健康のために気を付けていることはありますか？

本人：最近、栄養ゼリーを飲み始めました。

介護者（父）：固形物を飲み込むことが難しいのですが、ゼリーなら摂取できるのではと病院から勧められ、これに頼ることもあります。

本人：あまり気に入っていないのですが、父が飲むように口うるさく言うので。

【事例 1】 個人ワークシート

調査項目：2-6 健康・栄養管理

【メモ欄】

2-6 健康・栄養管理			特記事項
	1	支援が不要	
	2	部分的な支援が必要	
	3	全面的な支援が必要	

○調査対象者の概要

- Bさん 女性(48歳)
- うつ病。精神障害者保健福祉手帳3級
- 独居

○評価を行う認定調査項目

- 「4-3 感情が不安定」

○認定調査の状況

- 対象者の自宅にて調査
- 本人が対応

【事例 2】シナリオ

調査員：悲しい気持ちや怒りなど、感情が不安定になる時がありますか？

本人：はい。普段は問題なく過ごせているのですが、時々気分が重くなる 때가 あったり、いろんな悩みが重なってパニックになったり、時には生きているのが嫌になったり...とにかく、心が暗くなるような感じになる時があります。

調査員：そうなんですね。この1か月ではどれくらいの頻度で不安定になりましたか？

本人：この1か月では特にはないです。というのも、しばらく調子が良かったので薬を止めてしまっていたのですが、先生から定期的に服薬するように言われて、今月からは薬を毎日飲んでいるのが効いているようです。

調査員：そうなんですね。先月まで薬を止めていた頃はどれくらいの頻度で気分が重くなっていましたか？

本人：そうですね、1か月のうち半分くらい調子が悪い、という感じです。

【事例 2】 個人ワークシート

調査項目 : 4-3 感情が不安定

【メモ欄】

4-3 感情が不安定			特記事項
	1	支援が不要	
	2	希に支援が必要	
	3	月に1回以上の支援が必要	
	4	週に1回以上の支援が必要	
	5	ほぼ毎日(週に5日以上)の支援が必要	

○調査対象者の概要

- Cさん 女性(31歳)
- 脳出血(右片麻痺、注意障害、左半側空間無視)
- 身体障害者手帳3級、精神障害者保健福祉手帳3級
- 家族(母)と同居。主たる介護者は母。

○評価を行う認定調査項目

- 「2-11 危険の認識」

○認定調査の状況

- 対象者の自宅にて調査
- 本人と母親が対応

【事例3】シナリオ

調査員：生活の中で危ないと感じたり、危険な目に遭ったりしたことはありますか？

本人：危ないと感じることはあまりありません。気を付けて行動するようにしています。以前は左側に気づきにくく、見落としたり、体をぶついたりすることがありましたが、今はほぼなくなりました。

調査員：慣れていない状況や初めての場所でも違いはありませんか？

本人：あまり違いはありません。

介護者(母)：家の中ではあまり心配しないんですけど、家の外ではやはり左側の見落としがあります。病気になってから慣れていない場所にはあまり出かけていないのですが、私から見ているとまだ危なっかしいと感じます。先日も、声掛けをして看板にぶつかるのを回避したことがありました。

【事例 3】 個人ワークシート

調査項目：2-11 危険の認識

【メモ欄】

2-11 危険の認識			特記事項
	1	支援が不要	
	2	部分的な支援が必要	
	3	全面的な支援が必要	

○調査対象者の概要

- Dさん 男性(42歳)
- 知的障害、自閉スペクトラム症。療育手帳(重度)所持。
- 障害者支援施設入所中

○評価を行う認定調査項目

- 「4-22 他人を傷つける行為」

○認定調査の状況

- 施設にて調査
- 本人と施設職員が対応
(本人への調査後に施設職員へ追加質問している場面)

【事例 4】シナリオ

調査員：Dさんに対する支援に関して、少し補足でお話を聞かせて下さい。コミュニケーションについて、絵カードを使ってやり取りしているとのことでしたよね。

施設職員：はい、言語理解が苦手な方なので、絵カードを提示し、イメージを持ってもらった上で活動していただいています。他にもいろいろ工夫を重ねているんですよ。例えば、ケース会議で自傷行為や他害行為の要因の一つに人の動きや存在が過剰に気になってしまうのではないかという話になり、Dさんの食事の席を人の動きが目に入りにくい席に変更したり、集団活動でなく、個別活動を中心とした支援に変更しています。体制も、集団支援ではなくマンツーマンに変更しています。

調査員：そうなんですね。先ほどの調査時は、とても穏やかな方だなという印象だったのですが、様々な配慮をされているのですね。あらためて確認しますが、「自らを傷つける行為」や「他人を傷つける行為」は、月に1回あるかないか、とのことで、合っていますでしょうか。

施設職員：そうですね、この1か月を振り返ると、1回もなかったと思います。

【事例 4】 シナリオ（続き）

調査員：それは施設のみなさんがDさんへの支援において配慮をされていたから、というところがあるのでしょうか？

施設職員：そう思います。実は、入所当初は毎日のように自傷・他害がありました。最近でも、2～3か月前の事例ですが、新任の職員が対応した際に、イライラして噛みつくようなそぶりがあり、ヒヤリとしたことがありました。Dさんは言葉のみの理解が難しいのですが、その職員は言葉でのやり取りを立て続けにしてしまい、それが原因で混乱したのだと思います。他の職員が状況に気づき、絵カードで次の活動を促したことで切り替わり、ケガ人は出ずにすみました。

調査員：そのようなことがあったのですね。そうすると、Dさんが理解しやすい意思疎通の方法を選択したり、職員を含む周囲の人との関わり方に配慮をするなど、つまりは環境の工夫などの配慮がないと、どのくらい自傷・他害が生じると考えたらいいのでしょうか。

施設職員：Dさんの場合は周囲の環境や状況に影響を受けやすい方なので、配慮が無い状態で刺激が重なれば、毎日でも自傷・他害につながるかもしれません。

【事例 4】 個人ワークシート

調査項目： 4-22 他人を傷つける行為

【メモ欄】

4-22 他人を傷つける行為			特記事項
	1	支援が不要	
	2	希に支援が必要	
	3	月に1回以上の支援が必要	
	4	週に1回以上の支援が必要	
	5	ほぼ毎日(週に5日以上)の支援が必要	

○調査対象者の概要

- Eさん 男性(59歳)
- クモ膜下出血(重度の記憶障害)。精神障害者保健福祉手帳2級
- 障害者支援施設入所中。

○評価を行う認定調査項目

- 「4-17 ひどい物忘れ」

○認定調査の状況

- 入所中の障害者支援施設にて調査
- 本人と支援者が対応

【事例5】シナリオ

調査員：普段の生活の中で、物忘れをすることはありますか？

本人：歳なので多少はありますが、生活に支障がでるようなことは全くありません。
覚えておく必要があることはノートにメモを取って、忘れないようにしています。

調査員：そうなんですね。支援者の方から補足はありますか。

支援者：うーん・・・、実際は予定を忘れていることも結構ありますかね。例えば、入浴時間に関して、朝の段階で入浴時間の予約を取っていただき、時間になったらご自分で入浴してもらうようにしているのですが、毎日、1日に何回か入浴時間を確認に来られるので、その都度、お約束した入浴時間をお伝えしています。記憶の部分については、毎日の支援が必要だと私たちは感じています。

本人：確かに、改めてそう言われるとそうかも知れないですけど・・・。そんなに何回も確認してたかなあ・・・。

【事例 5】 個人ワークシート

調査項目： 4-17 ひどい物忘れ

【メモ欄】

4- 17 ひどい物忘れ			特記事項
	1	支援が不要	
	2	希に支援が必要	
	3	月に1回以上の支援が必要	
	4	週に1回以上の支援が必要	
	5	ほぼ毎日(週に5日以上)の支援が必要	

○調査対象者の概要

- Fさん 男性(45歳)
- 外傷性クモ膜下出血(社会的行動障害)。身体障害者手帳2級
- アパートでの単身生活。主たる介護者は不在。

○評価を行う認定調査項目

- 「4-5 暴言暴行」

○認定調査の状況

- 通所中の就労継続支援B型事業所にて調査
- 本人と支援者が対応

【事例 6】シナリオ

調査員：暴言暴行など他人を傷つけたりすることはありますか？

本人：私が傷つけられることはありますが、傷つけたりすることはありません。先日も文句を言ってきた人に胸ぐらをつかまれました。

支援者：(困った表情で)Fさんはそのように感じられたのですね。

調査員：この件について、事業所の方に後で追加のお話を伺っても良いですか？

本人：大丈夫です。

【後日、電話にて追加調査】

調査員：先日お話されていたトラブルについて、少し詳しくお話を聞かせてください。

支援者：はい。Fさんのお話は実際と少し違います。Fさんがゴミを所定の場所とは違うところへ捨てたため、そのことを注意した人と口論になったんです。Fさんは「傷つけたりすることはありません」と言っていましたが、先に手を出したのはFさんのように私からは見えませんでした。実際にトラブルに発展するのは月に1回程度ですが、事業所の職員はFさんの様子に毎日気を配っています。声掛けや仲裁がなければ暴言暴行につながりそうな場面が、この1か月では10回程度ありました。

【事例 6】 個人ワークシート

調査項目： 4-5 暴言暴行

【メモ欄】

4-5 暴言暴行			特記事項
	1	支援が不要	
	2	希に支援が必要	
	3	月に1回以上の支援が必要	
	4	週に1回以上の支援が必要	
	5	ほぼ毎日(週に5日以上)の支援が必要	

○審査会委員は特記事項を見て対象者の状態をイメージする。

→選択肢で拾いきれない支援の内容や、選択の根拠、実際に行われている支援の頻度等を詳細に記載する必要がある。

例えば・・・

- 同じ「見守り」でも、ただ見守っているだけなのか、いつでも手を出せるよう用意しながら見守っているのかでは、必要な支援の度合が異なる。
- 同じ「部分支援」でも、支援の頻度はどの程度なのかによって必要な支援の度合が異なる。

第三者が見てわかりやすい内容、記載になっているかを意識する。